

令和3年度 学校自己評価書

鈴鹿市立南川小学校

評価項目		本年度の活動（具体的な手立て）と指標	今後の改善点（成果 ● 課題 ▲ ⇒改善策）
授業等	①昨年度実施のスタディ・プロジェクトの分析から具体的な対応策の実施	①昨年度実施のスタディ・プロジェクトの分析から具体的な対応策の実施 ・学習内容の定着を図る取組推進 ②授業研究会の開催 ・全教員が授業研究発表者 ・全教員が年間1回の授業研究発表者 ・全教員が対話的、深い学びとなるようカリキュラム・コンテント・学習指導の創造 ③学習事項の定着（学びおろし）につながる学習指導 ・全校で取組む「読み上げ計画」・「書きおろし」（補充学習）年5回 ・年間授業計画精選と効果的授業のための教材研究	①●部会に分かれて問題を解き、児童の実態を把握し、読みと読みを分析した。 ②●全職員が共通理解すること、2学期以降の授業で意識することできた。 ③●全職員が授業研究をすること、2学期以降の授業で意識することできた。 ④●授業研究の前は、児童・生徒・教員・保護者・地域に分かれて指導者・講師を招くことで、職員・一人ひとりが前向きに取り組むことができた。 ⑤●学校の授業はよくなる。94%（児童アンケート7月～12月37%増）「進んで勉強する」83%（児童アンケート7月～12月26%増）「宿題をやりきる」83%（児童アンケート7月～12月26%増） ⑥●学校の「読み上げ計画」については、スモールステップで全職員が印刷教材化して取り組むことができた。 ⑦●学校の「書きおろし」については、スモールステップで全職員が印刷教材化して取り組むことができた。 ▲●全校での取り組みとしてはまだまだ浸透できなかった。よりよい方法を模索していくことが必要である。
	家庭学習	④学年の目標学習時間の達成率60%以上 ・「家庭学習の手引き」の活用	④▲●各学年工夫を凝らしながら課題を出しているが、宿題を忘れてきたり、宿題を早く終わらせて、学年の目標学習時間（学年×10～15分）を達成することはないが、進捗率が高い。家庭学習率（通達達成率89.5%（12月）⇒前年度）「学年の目標学習時間を達成し、取り組みが定着している」を達成している。65.2%（児童アンケート7月～12月29%増）「宿題をやりきる」79.1%（児童アンケート7月～12月26%増）「宿題をやりきる」98.3%（12月）
	読書	⑤図書巡回指導員の活用 ・ブックトーク【本の紹介】年6回以上	⑤●●多方面において、週に一度の図書巡回指導員の活用ができた。図書巡回指導員は、図書の授業での本の紹介、本の選定の助言、図書読書指導など、さらに子どもたちの読書活動をサポートし、図書巡回指導員からアドバイスを受けることができた。
	特別支援教育	⑥通常の学級での支援 ・校内支援会議の開催、対象者1人×2回 ・特性に応じた支援方法の研究	⑥●●月2回までの学年も積極的に活用できている。ICT支援員が教員のニーズに応じて教えてくれたため、来校しない子どもや保護者には適宜面談や支援会議を持ち、改善を図ることができた。⇒支援方法の研鑽も進んでいく。
	プログラミング教育	⑦ICT活用指導力の向上 ・月2回の支援員さん各1名で授業で活用 ⑧実践的な研究発表1回	⑦●●月2回までの学年も積極的に活用できている。ICT支援員が教員のニーズに応じて教えてくれたため、来校しない子どもや保護者には適宜面談や支援会議を持ち、改善を図ることができた。⇒支援方法の研鑽も進んでいく。
学力の向上	キリッ教育	⑨「すずきキリッ」など外部講師の活用 ・年25回以上	⑨●●外部講師の活用は、プログラミングさんも含めて、内容を考えながら十分行うことができた。 ●●外部講師の活用は、プログラミングさんも含めて、内容を考えながら十分行うことができた。 ●●外部講師の活用は、プログラミングさんも含めて、内容を考えながら十分行うことができた。
	多文化共生教育	⑩外国語学習の成果活用 ・外国人へのインタビュー（高学年各1回） ・外国人へのインタビュー（5年生社会見学、6年生修学旅行時）	⑩▲●社会見学や修学旅行で、目的地に行くことができたので、インタビュー活動はできた。 ●●代わりに各課の放送で「外国人のインタビュー」をおこなった。プログラミングの講師の方を招いて、多文化共生学習を行った。
	豊かな心と体の育成	⑪異年齢との交流 ・わくわくタイム（異年齢遊び）月1回 ・あいさつ運動 年1回	⑪●●わくわくタイムが月2回できた。6年生を中心とし、縦割りの班で子ども主体で活動できた。 ●●わくわくタイムは楽しい。児童アンケート95.7%（7月～12月43%増） ●●PTAは、児童アンケート95.7%（7月～12月43%増） ●●あいさつ運動において、児童主体の強化運動は継続して行っている。⇒指導者からの発表はあるが、改めて児童会主体で計画的に取り組む必要が
基礎的な学力の育成	体力・運動能力	⑫昨年度新体力テストの分析から具体的な対応策の実施 ・全校で取組む体育の時間の最長1時間（サーキットトレーニング）	⑫●●どの学年も、サーキット、フリスビー、大縄など時期に合わせて運動に取り組んでいる。⇒詳細は学年主任と立てたので、具体的な成果をもとに足並みをそろえていく。
	基本的学習習慣	⑬各種エッセイの活用 ・新着中学校区「家庭学習の取組」年3回 ・みえの学力向上エッセイ「年2回」	⑬●●校区で時間を合わせて、家庭でも通信で発表しながら行える。 ●●家庭学習の取組は達成率が上がった。（達成率学習81ポイント増 読書33ポイント増） ⇒取り組み期間中はよかったので、普段からも家庭学習が行えるように手立てを考えていく。
	安全安心な学校づくり	⑭学校生活についての満足度調査 ・「学校生活は楽しい」97%以上 ・通達達成率3日について「肯定的な認識」 ⑮いじめアンケートの実施（年3回） ・組織的な指導（いじめ発生中） ⑯登下校の安全 ・校長による登下校指導（毎日） ・危険箇所点検（年1回） ・子どもを守る家の確認（年1回）	⑭●●学習や生活面で課題を抱えている児童がいるが、特別支援の枠の中に効果的に支援をすることができた。⇒さらに学校内や不登校にならないように継続する必要がある。学校生活は楽しい。児童アンケート95.7%（7月～12月43%増） ●●PTAは、児童アンケート95.7%（7月～12月43%増） ●●あいさつ運動において、児童主体の強化運動は継続して行っている。⇒指導者からの発表はあるが、改めて児童会主体で計画的に取り組む必要が
家庭と地域の連携	地域とともにある学校づくり	⑰情報提供の充実 ・学校だより年22号以上発行 ・学校ホームページを年24回以上更新 ・学校関係者への説明 ・学校関係者への説明 ・満足度調査（児童、保護者）の結果提供	⑰●●学校だより41号発行（1月17日発行）している。▲●HPの更新15回（12月末）。⇒必要内容は目録に更新するように心がける。 ●●行事の開催・実施により学校に集っていただく機会が増えたため、子どもたちの活動や成果、地域との交流、ボランティアさんの活動、教員や学校の現状などを発信した。また、各担当は学年主任より子どもたちの様子や進捗を伝えることができた。
	働き方改革	⑱定時退校日の設定（月2回） ・その日に退校できる職員割合80% ⑲会議時間の短縮 ・職員会議資料の事前配布と議事録簡明記 ・60分以内に終了する会議割合70%	⑱●●定時退校日の設定を行事計画に入れ、計画的に無理なく行えた。達成率平均85%。 ●●会議の会議は、資料を絞って行っていた。また、ある程度下から行われており、職員会議は議題設定を事前準備に入っていたので、議題の議題が多くなる傾向によって、60分以内に終了する割合は70%。⇒内容を精選して手短かに伝えるように意識する。